

2009年度

科目名	文化財科学実習Ⅱ		
担当教員	三辻 利一		
配当	文財3(2142)	コード	53570
開期	後期	講時	金曜日3限
		単位数	1
授業テーマ	胎土分析の理論と実際； 土器の生産と供給の過去を如何にして再現するかについて実習する。		
目的と概要	古代エジプト文明やメソポタミア文明のように、古墳時代以前の日本の古代には文字は残っていない。遺物を通して、如何にして過去を再現するかは重要な課題である。日本では大量の土器片が発掘されているので、土器を通して過去を再現しようとする「新しい土器の考古学」が模索されている。そのためには土器の蛍光X線分析は不可欠である。本演習では土器の蛍光X線分析のデータから、如何にして過去を再現するかについて、その手法を演習する。		
成績評価法	毎回、レポートと実習結果の提出を求める。		
テキスト	とくにない。		
参考書	とくにない。		
履修に当たっての注意・助言	毎回、実習を通して注意と助言をする。		
講義計画			
第1回	胎土分析の実際		
第2回	「やきもの」と「土器」 土壌と粘土の違い(実物の比較)		
第3回	土器の考古学 型式学と胎土分析		
第4回	蛍光X線分析の原理と実際 装置の見学と試料の作成		
第5回	不均質系試料の分析化学 準均質系と不均質系		
第6回	多数の試料の分析 統計学の考え方の導入		
第7回	平均値と標準偏差の計算と、その意味		
第8回	分析値のばらつき 変動係数の計算		
第9回	窯跡出土須恵器の地域差 K-Ca、Rb-Sr分布図の作成		
第10回	マハラノビスの汎距離の二乗値の計算		
第11回	2群間判別分析法 ホテリングの検定		
第12回	古墳出土須恵器の産地推定 判別図の作成と産地推定		
第13回	埴輪の胎土研究 K-Ca、Rb-Sr分布図での分類とクラスター分析		
第14回	軟質土器の胎土研究 土師器の型式と胎土の比較		
第15回	新しい土器の考古学		